

21世紀 最初の10年で 感染症対策を中心に 115億ドル超の支援

「保健と開発」に関するイニシアティブ (HDI) 実施中

～ MDGs達成に向けた日本の具体的活動～

予防に重点 包括的アプローチ＝

安全な水、衛生、食糧・栄養、教育との連携、
保健医療関係者の育成、保健システムの強化など

IDI(沖縄感染症対策イニシアティブ)

：2000-2004年で58億ドル(当初目標は30億ドル)

HDI:2005-2009年で50億ドル (2005年は資金協力のみで
+ 6.2億ドル以上実施済み。その他、技術協力等あり。)
世界エイズ・結核・マラリア対策基金(世界基金)への拠出
(合計4.8億ドル)

感染症との闘い

現在の危機

三大キラー

根絶に向け

弱者の敵

鳥及び新型インフルエンザ

- (1) アジア地域への医薬品備蓄、医療器材供与、人材育成等の協力 (抗インフルエンザウイルス薬50万人分の備蓄支援と検査キット・防疫服70万人分等の供与など)
- (2) 鳥及び新型インフルエンザに関する国際プレッジング会合(北京会合、1月開催)における各国支援誓約の早期履行を呼びかけ (4月末時点で平均履行率は15%。日本は1.55億ドル全額履行済)
- (3) 国際保健規則2005の前倒し実施と各国への同調呼びかけ 公衆衛生上の脅威を24時間以内にWHOに通報するシステムが構築される

エイズ・結核・マラリア 年間死者600万人

- (1) 日本政府は世界基金に4.8億ドルを拠出済み
- (2) 2006年以降は更に拠出を増額し、当面5億ドルを拠出表明 (うち1.3億ドルを2006年3月に拠出済み)

ポリオ

撲滅まであと一歩 予防接種を支援
日本は中国等WHO西太平洋地域のポリオ撲滅を実現
(2000年、WHO)

麻疹

予防接種を支援

下痢・肺炎 開発途上国で子供の主要な死因への対策を支援

「顧みられない疾病」も忘れずに世論喚起
リーシュマニア症、シャーガス症、オンコセルカ症

生活の改善

安全な水と衛生サービス

(日本は世界のODAの半分を実施)

・教育や薬とともに、感染症予防に不可欠

インフラ整備

・保健サービスへのアクセス向上

アフリカの人々とともに

アフリカ感染症行動計画

・エイズ: 青年海外協力隊員を年間100名規模派遣

・マラリア: 新型発明の蚊帳500万張を配布済み。

2007年までにさらに500万張を供与

・結核、ポリオ、寄生虫、新興感染症対策も推進中

黄熱病研究野口英世博士を記念する賞

・アフリカの医学・医療部門で顕著な功績を遂げた者へ

・アフリカの感染症等の疾病対策推進に資する目的